

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

### 18 クロード・モネとジョルジュ・クレマンソー（2020年12月15日）

印象派を代表する画家であるクロード・モネは、浮世絵をコレクションして、ジヴェルニーにある自宅の庭に日本風の庭園を造って睡蓮の絵を描いたことは良く知られています。モネとジョルジュ・クレマンソー元首相との友情や、クレマンソー自身も日本美術のコレクターであったことをご存じでしょうか。

モネ（1840年-1926年）とクレマンソー（1841年-1929年）は、モネが若い貧乏画家で、クレマンソーが政治に関心を持つ医学生だった1860年代に出会いました。クレマンソーは、印象派が評価されていなかった初期の頃から印象派を支持し、モネとの友情は生涯にわたって続きました。モネは、最晩年に睡蓮の大作を制作しました。モネは、1918年に第一次世界大戦の勝利を祝って、睡蓮の大作を国に寄付することをクレマンソーに約束し、クレマンソーは、睡蓮を展示するためにオランジュリー美術館を整備することにしました。モネが白内障で失明の危機に陥り、睡蓮の制作を諦めかけたときもクレマンソーはモネを励まし続けました。1926年、クレマンソーは死を間近にしたモネのもとに駆け付け、モネはクレマンソーの腕の中で息を引き取ったと言われています。そして、モネの死後の1927年に、睡蓮を収めたオランジュリー美術館が開館しました。



クレマンソーは、全部で約3000点の日本美術品を集めました。特に香合に魅了されて蒐集しました。香合とは、茶道で使う道具の一つで、お香を入れるための小さな入れ物です。素材は、陶器、磁器、木、貝殻などが使われます。クレマンソーが暮らしたパリ16区にあるアパートが現在は記念館となっており、ここでコレクションの一部を見ることができます。クレマンソーが日本美術に関心を持ったのは、親友モネの影響もあると考えられますが、総理大臣を務めた西園寺公望の影響があったとも言われています。西園寺公望は、フランス留学時代に法学者エミール・アコラスの私塾でクレマンソーと知り合いました。そして、二人は1919年のパリ講和会議で再会し、二人とも二度首相を務めました。

